

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 長崎県立国見高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒859-1321
長崎県雲仙市国見町多比良甲1020番地

E-mail kunimi-h@news.ed.jp

Website http://www2.news.ed.jp/section/kunimi-h/

幼児児童生徒数 男子 180名 女子 98名 合計 278名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳 ~ 18歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

活動テーマ

当校は、環境破壊や地球温暖化諸問題に強い関心をもつとともに、自然豊かな島原半島という地域の中で「環境問題と地域とのつながり」をテーマとして、実際に高校版 EMS を運用しながら系統的な環境学習に取り組むことで、持続可能な社会をつくる担い手である若者の育成を目指している。

具体的な活動内容

- ① 「国見高校 EMS」(高校版 ISO 14001) の継続的な運用と深化
- ② 3 年間の系統的な「環境教育プログラム」の実施
- ③ 新聞紙エコバッグなどの「エコなものづくり活動」の推進
- ④ 通学路・海岸清掃などの「地域の自然に親しみ保全する活動」

① 「国見高校 EMS」の継続的な運用と深化に係わる活動

国見高校環境マニュアルに基づいて、環境対策活動 (節電・節水・ゴミ削減など)、活動の状況を情報発信、生徒と職員による推進会議、ESD の推進などを継続的に実施している。また、校外で新たな地域の団体とも交流を広げている。

② 3年間の系統的な「環境教育プログラム」の実施

環境破壊や地球温暖化の諸問題に関する知識や理解を深めるもので、問題に対する興味・関心を引き、体験活動ができるようなコンテンツを実施している。

・第1学年：地球温暖化や気候変動について学んだ後、身近な環境問題であるゴミの問題を取り上げ、国見高校で行っている対策活動を紹介し、実際にゴミ分別の体験をした。

・第2学年：全地球的な観点で、環境破壊や地球温暖化の諸問題をとらえることができるように、その原因や対策について学んだ。また、自分たちの住む地域にもその影響が及んでいることを対馬の「漂着ゴミ」の問題を通して気がついた。

・第3学年：持続可能な発展のために解決すべき課題として「水問題＝限られた資源」や「戦争などによる環境破壊」を考え、どのような解決方法があるのかを探った。

③ 新聞紙エコバッグなどの「エコなものづくり活動」の推進

地球温暖化対策活動の一環として「エコバッグ利用の推進」を行っている。新聞紙を使ったエコバッグなどのエコなものづくりを校内に紹介し、さらにそれを地域に広める活動(商店街で作り方を教える。無料で配布するなど)を行った。このような学校以外での活動において、様々な立場の人とふれあい・交流を行う中で、コミュニケーションや多様性の尊重などに気がつく生徒も多かった。

④ 「地域の自然に親しみ保全する活動」

これまで実施していた通学路・海岸清掃活動に加えて、本年度は災害記念館での体験や被災地の見学を3年生で実施した。ジオパークに指定されている島原半島の自然の豊かな恵みを知るとともに、災害の怖さや防災の必要性などを実感することができた。



① の写真 (EMS 活動紹介)



② の写真 (地域清掃活動)



③ の写真 (エコバッグ制作)



④ の写真 (被災遺構見学)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記入)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・「ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育 (ESD)」 ESD 広報媒体 パンフレット・「ESD QUEST」 ESD 広報媒体 ストーリーブック・ユネスコスクール公式ウェブサイト http://www.unesco-school.mext.go.jp/・「国見高校の環境活動」(自作スライドショー)・「国見高校のゴミ分別について」(自作スライドショー)・「ユネスコスクールとESD」(自作スライドショー)・「ゴミ分別クイズ」(雲仙市ゴミの分け方・出し方ルールブック)・授業書「ごみと環境」 (仮説実験授業研究会)・環境問題啓発TV番組 「世界一受けたい授業」地球温暖化 アルゴア副大統領・北野大 「一秒の世界」 対馬の漂着ゴミ問題 その他・教科書 「現代社会」「科学と人間生活」「家庭基礎」「保健体育」
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

平成29年2月のユネスコスクールの承認を受けて、初年度に当たる平成29年度は、主にユネスコスクールとESDの認知度を高めることに重点を置いた活動を行った。

関連教科の授業で扱う内容のほかに、「環境教育プログラム」として総合的な学習の時間を中心として、学年ごとに地球温暖化・漂着ゴミの問題・環境破壊・エコな物づくり・防災・地域理解などについて計画的に編成・実施している。

また、指導方法についても単なる知識の伝達にとどまらないように、視聴覚教材等の利用や体験・体感を重視した活動、校外での活動など、参加型アプローチを意識して生徒の興味関心を喚起することや問題解決の能力を育成することに努めた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体で、継続的に環境対策活動を続けるために「国見高校環境管理マニュアル」に基づいて「国見高校EMS」の運用を行っている。

この取り組みを推進するのが「環境づくり推進委員会」で、生徒が職員とともに会議に参加し、対等な立場で話し合う。また、「環境づくり推進委員会」は、そのままESDを推進するための機関である。

実質的にEMSを運用しているのは「環境づくり事務局」で、職員と生徒がボランティアで活動している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

「国見高校EMS」はPDCAサイクルによって運用されるので、C（チェック）として内部監査にともなう生徒アンケート（質問紙）を年度末に実施することによって活動のねらいがどの程度達成されているかを評価している。全体として環境に対する意識や取り組みは学年が上がるごとに向上しており、活動の成果が現れていると思われるが、昼休みや晴天時の消灯・缶のリサイクルなどの項目については、どの学年でも低いことが課題として考えられる。（別紙 アンケートと結果 参照）

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果は、主に壁新聞「エコダネ」・「環境情報」によって生徒職員に発信し、これをインターネットの学校ホームページにアップすることで、保護者や地域に発信している。本年度は14号を発行し、教室等に掲示した。なお学校ホームページは、平成30年2月長崎県教育委員会のページに移行したため、過去の活動については現在閲覧できない状況である。また、島原新聞や長崎新聞などの一般紙にもその活動が紹介された。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

コスモアースコンシャスアクトクリーンキャンペーン・長崎市環境月間街頭キャンペーンなどの環境イベントに参加。サステイナブルツーリズムのフォーラムにて活動をポスターセッションで紹介した。また、長崎県高校生・大学生環境会議の主要メンバーとして新聞紙エコバッグの普及活動を行うとともに、会議等でも大学生や高校生に向けて積極的にユネスコスクールやESDの紹介を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

高校生ユネスコ交流研修会 in 大分に参加し他のユネスコスクールなどとの交流を行った。しかし、海外のユネスコスクールに対しては、主に言語の問題で交流することはできなかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校の活動は、ユネスコスクールに承認される前には環境問題についての取り組みが主であった。しかし、承認後の活動によってその他にも地球規模の課題があり、自分たちの未来に関係していることを、生徒が意識するようになってきている。

また、教員もESDを意識して、改めてアクティブラーニングなどの教授法に対する取り組みを始めている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度と同じく、「環境問題と地域とのつながり」を活動テーマとして、以下の4つの具体的な活動を継続して実施していく。

- ①「国見高校EMS」の継続的な運用と深化
- ②3年間の系統的な「環境教育プログラム」の実施
- ③新聞紙エコバッグなどの「エコなものづくり活動」の推進
- ④通学路・海岸清掃などの「地域の自然に親しみ保全する活動」

①については、生徒数の減少や下宿生の増加などの状況変化に対応した方策を検討する必要がある。

②については、さらに魅力的なコンテンツを作り出していきたい。

③については、生徒だけでなく家庭や地域に利用を広げていきたい。

④については、防災活動やジオパークの利用等も視野に入れて活動を継続していきたい。